

PTA

やまがた

第32号

平成20年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 遠藤 正明

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533

第59回 山形県PTA研修大会 東置賜大会

～家庭・学校・地域とのみかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを～



「しっかり止まって はっきり確認」

交通安全緊急アピール

県P連活動スローガン

『はぐくもう

笑顔輝く山形の子どもたちを』

—— 行動しよう 守り育てるPTAを目指して——

笑顔輝く

子どもたちのために

山形県PTA連合会会長 遠藤 正明



日頃より山形県PTA連合会の運営に対し深いご理解と温かいご支援をいただき、衷心より感謝申し上げます。本年度は「はぐくもう 笑顔輝く山形の子どもたちを」

「行動しよう 守り育てるPTAを」目指してをスローガンとして、子どもたちを取り巻く課題の解決に向け、各郡市PTA・各単位PTAの皆様とともに力を注いで参りました。

今、学校や子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、深刻ないじめ、児童虐待、不登校、少年犯罪の低年

齢化や凶悪化などあつてはならない教育の根幹を揺るがす様な事が、現実として起こっています。それは、子どもたちを守るべき大人が、その責任を果たしていない表れだと感じます。対岸の火事ではなく、我がこととして捉え子どもたちに関わる全ての人が、真剣に考える必要があります。また昨年「教育再生」のもと、先を見据えた教育の骨組みづくりと「いじめ等」に対する緊急の対応が検討されています。我々PTAは様々な施策が子どもたちのためになるように考え、課題の解決に向け行動していかなくてはなりません。

そこで、家庭・学校・地域社会の架け橋として、また地域の一員としてのPTAの役割が、ますます重要なものになってきております。教育の基盤は家庭にあります。家庭での育ちがあり学校での学びが成立し、地域の人々とのかわりの中で多くのびていきます。すなわち「家庭で育ち、学校で学び、地域でのびる」

ように、子どもを守る大人が、しっかりと子どもたちを見守り育てていく事が大切です。

さて、本年の活動として初めに研修大会の開催についてご報告致します。

十月に、第五十九回山形県PTA研修大会が、「家庭・学校・地域とのかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」を大会主題として、県内各地より千余名のPTA会員の皆さんのご参加をいただき開催されました。山形県教育委員会を始め東置賜地区一市二町の教育委員会との共催を頂戴し開催できたことは、主催者として誠にうれしく関係各位に對し厚く御礼申し上げます。また、主管の東置賜地区PTA連合会の皆様には、一年前からの準備に始まり当日の運営に至るまでご尽力をいただき誠にありがとうございます。そして大会では、「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭・地域と学校教育」「健康・安全教育」のテーマで五つの分科会が開催され、それぞれの参加型の分科会では活発な討議がなされ、課題解決に向け情報を共有し、家庭の基盤となる家庭の教育力を高める研修が出来たものと確信しております。全体会での記念講演では、星寛治氏を招き「育てるとい

うこと 食育教育のめざすもの」の演題で、参会者の心に響くご講演をいただきました。

十一月には、県教育委員会と県高等学校PTA連合会との合同教育委員会懇談会が開催され、小・中・高の子育て全てに共通した「子どもの自立を目指して」というテーマをもとに、自立をうながす親のことは・姿勢、自立を妨げる親のことは・姿勢の視点で話し合いがなされました。そこでは、それぞれの家庭で様々な方法を取りながらも、悩み考えている話を伺い、次世代を担う教育は、時代の変化に呼応しながら将来を見据え継続的に進めていかなくてはならないと感じたところです。

また本年は、山形県中学校校長会と山形県連合小学校長会と連携し「子どもと向き合う時間の拡充についての要望」など共に手を携えて行動しているところです。

今後も山形県PTA連合会は、笑顔輝く子どもたちのために、社会の変化を敏感に感じ取りながら課題の解決に向け考え、行動していきたいと考えております。

最後にご支援ご協力をいただいた、県教育委員会を始め関係各位の皆様に対し心から感謝申し上げます。

我慢力は意欲を生む原動力



山形市立第八小学校校長 佐竹 恵一

一〇〇六年度に十五歳を対象に実施された「学習到達度調査」(PISA A)で、日本が全分野で順位が後退したという記事が、新聞に載っていました。出題内容は、「読解力」「数学的応用力」「科学的応用力」の三分野で、今回は科学的応用力を重点評価したということです。

このような記事が出るたびに、私はいつも考えることがあります。それは、山形県の教育とPTA活動の実践は、間違っていない。ただ、時間の流れの中で、我慢する力が足りなくなってきたことが、PISAでの順位後退の原因ではないかという事です。

楽しく勉強することはもちろん大切ですが、じつくり我慢して取り組まなければ

ば、理数系の問題は解くことができません。数学や科学の問題は、何時間も考えないと解けない問題がたくさんあります。すぐに投げ出してしまつては、いつまでたつても力はないのです。読解力についても、読書が大いに関係してきます。読書をするにも、テレビを見たり、ゲームをするのに比べて我慢力を必要とするのです。

文明の発達した現在は、簡単で便利なことが好まれるようになり、手間のかかることは、面倒がられるようになりました。子どもたちは、ほしいものを与えられ、働かされることもめつきり減ってきました。簡便な方法を準備したり、子どもの興味を重視しすぎた結果、子どもは自己中心的になったり、我慢することや困難なことに立ち向かうことが少なくなつたりしていると思うのです。

意欲と耐性とは、相互依存の関係にあると思います。我慢する力、自らを律する力を育てることは、意欲の高まりに反映されることになると思うからです。

山形県のPTAの歩みは、確かなものです。その中で、わたしたちPTAは、子どもを甘やかすのではなく、厳しさの中で、我慢や辛抱する力を育てたいものです。

山形県PTA研修大会東置賜大会を終えて



東置賜大会実行委員長 平 雅昭

昨年十月に高島町文化ホール「まほら」を主会場として第五十九回山形県PTA研修大会を皆様のご協力により盛大に、大成功に開催できましたことを心よりお礼申し上げます。

本大会には、県内各地より一千名を超えるPTA会員の皆様に参加頂き、五つの分科会でパネルディスカッションを行い、家庭教育・地域教育・食育教育などについて活発な意見交換が行われ県内それぞれの地域や学校の実践を交流し、多方面から学び合えた分科会となったと思います。

全大会のあとの記念講演においては、地元高島町の星寛治先生より「育てるといふこと 食育教育のめざすもの」をテーマにご講演をいただき「PTAが食育の一翼を担うとともに健康

でかしこい、心優しい人間を育てるための活動であり、この日常の活動こそが山形の地域教育を発展させていくベースになる」と話され食育教育の大切さを学ぶことができました。また、昨年九月に南陽市で登校中の小学生が車に跳ね飛ばされ死亡するというあつてはならない痛ましい交通事故が発生し、本大会において五つの緊急アピールを行い満場一致で採択いただき、「命の尊さ」「地域の子どもは地域で守る」ことを参加者全員が強く認識することができたのではないのでしょうか。

本研修大会は、東置賜一市二町のPTAが「やってよかった大会にしよう」をスローガンに一年前より準備を進めてまいりました。

実際に大会の運営に携わり、「強く、やさしい、いのち輝く子どもたち」の成長のため、私たちPTAの役割の重要さと、親たち自身が学び、成長するために研修大会の必要性と大切さをあらためて実感しました。

そのためにも第六十回鶴岡・東田川大会がより充実し実り多い大会になるようお祈り申し上げます。

最後に、ご参加頂きましたPTA会員の皆様、ご来賓の皆様、開催にあたりご指導ご支援頂きました皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

「子どもの自立をめざして」

～子どもの自立を促した親の言葉や姿勢と自立を妨げた親の言葉や姿勢～

「親は、子どもの自立を願い、成長を楽しみにしている。子どもの自立を保証する最高の教育環境は親の言葉や態度であるが、はたして自立を指向する子どもに親はどのように向き合ったらよいのだろうか。自立を促す効果的な言葉や態度はあるのだろうか、逆に自立を妨げてしまう親の言葉や態度には気をつけなければなりません。」今年で7回目になる合同教育懇談会は、山口常夫教育長をはじめ県教委の先生方のご指導を頂きながら、親として我が身を振り返りながら、小学校・中学校・高等学校と成長していく子どもと親のかかわりを見つめることができた懇談会となりました。



次に高橋氏からは、まず親が子どもにして欲しい事を実際にすること（子は親の鏡）、また子どもにあまり干渉せず、どうしたら良いか子どもに考えさせる事、他の子と比べたりせ

今年のテーマは、「子どもの自立を目指す」。この「自立」という言葉に対して参加者の方々より色々な意見が出されました。

☆話題提供

まずP T Aを代表して、県P連理事の佐東幸治氏と高P連の高橋勝幸氏の両氏より話題提供という事で発表して頂きました。

佐東氏からは、まず子どもの自立より親の自立が先ではないかという意見より「自分が自律を実感したのは父親を亡くした時、それを助けてくれたのは子どもたちであった。」などの話があった。続いて子どもの自立については、スボ少の例を挙げ、「自分の事を自分で出来ない子どもが多い。」また「自分が病気で入院したことで、子どもたちはとてもたくましくなった。適度な不安の中で子どもたちは自律し、自立するのでは。」と締めくくった。

今年、子どもがどんな時に自立を感じたか、自立したいと感じた時にかけてあげたい言葉や態度、自立をさまたげてしまった言葉や態度の三つに分けて報告いたします。

☆どんな時に自立を感じたか

これについての意見が一番多かった。「ひとりで寝るようになった。」「親の意見に同意、反発をするようになった。」「話し方が変わった。」「社会的に貢献（町内会費を払うなど）できるようになったら。」等、いろいろ出されました。

☆自立したいと感じた時にかけてあげたい言葉や態度

望遠鏡（将来、夢）双眼鏡（三、五年後）顕微鏡（今）の例を出し、「その時々に合わせてアドバイスする事が大切。」との意見が。やはり

さらに、子どもを信じて任せる事が大切である。また、「本気で何かを伝えたい時は、二人きりで独立した空間の中で話をすると子どもも真剣に聞いてくれる。」との経験談も交えながらの発表でした。

両氏の発表に共通している事は、あまり過保護にならずに子どもに出来ることは、できるだけ子どもに任せることが自立を促すには大切であるという事。こうした話題提供のあと、いろいろな意見交換がなされました。

まずはキチンと話を聞いて（褒めて）アドバイスをし、励ますことができれば良いのではと感じました。

☆子どもの自立をさまたげてしまった言葉や態度

「子どもが自分の事をやろうとしている時に遮るような事をしてしまった。」「子どもの気持ちや考えを無視したり、怒ってしまった。」「子どもができることを親がしてしまった。」等、過保護的な意見が多かった。

☆自立って何だろう？

山口教育長より「子どもの成長（自立）を我々大人がしっかりと助けていかなければならない」との感想がありました。高P連の仲野会長からは「人は人で磨かれる。人との関わりを多く持つ事が大切である。」また遠藤会長は前半の終りに「自分の自立に納得していない。この会をきっかけに自分なりに納得できるものを探していきたい。」と感想を述べ、懇談会が終わりました。皆さんも考えてみませんか？

「自立」

文責・県P T A連合会理事 本間 知 広

まず、子どもを信じて任せる事が大切である。また、「本気で何かを伝えたい時は、二人きりで独立した空間の中で話をすると子どもも真剣に聞いてくれる。」との経験談も交えながらの発表でした。

両氏の発表に共通している事は、あまり過保護にならずに子どもに出来ることは、できるだけ子どもに任せることが自立を促すには大切であるという事。こうした話題提供のあと、いろいろな意見交換がなされました。

「子どもが自分の事をやろうとしている時に遮るような事をしてしまった。」「子どもの気持ちや考えを無視したり、怒ってしまった。」「子どもができることを親がしてしまった。」等、過保護的な意見が多かった。



山形県P T A連合会 母親委員会の本年度の活動



県P T A母親委員長 無着 道子

今年度も「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、各郡・市において食育、性教育、子育て親育ちなど、様々な活動が展開されました。

母親委員会のあり方や組織状況の違いはあるもの、みんな同じ思いで子どもと向き合い、互いに情報交換をし、問題を共有して話し合いを大切にしています。ことに携帯電話に関しては子どもたちが危険な犯罪に巻き込まれる現状や、便利さとともにある負の面を理解し、目をはなさずに見守る日常の大切さを再確認しました。かわりに、の研修では、子どもの発達や体験の意味、伝え合う努力を惜しまない対話や新たな絆作りの大切さなど、具体的に話した。社会的環境の変化が様々な心の問題を誘引している

と、各郡・市において食育、性教育、子育て親育ちなど、様々な活動が展開されました。

山形県P T A母親委員会会則

- 第1条 本会の名称
本会は山形県P T A母親委員会という。
- 第2条 本会の位置づけ
本会は山形県P T A会員からなり、山形県P T A連合会の組織の中に置く。
- 第3条 本会の目的
本会は、児童生徒の自立をめざし、健全な成長を図るための子育てや家庭教育のあり方に関する各郡・市P T A母親委員会の情報交換を密にするとともに、会員の研修を深め母親委員リーダーの育成を活動目的とする。
- 第4条 本会の活動
本会は前条の目的達成のために、次の活動や情報交換を行う。
(1) 子どもの様子や母親委員会活動の情報交換を行う。
(2) 子育て・家庭教育のあり方についての研修を行う。
① 父親・母親の役割について
② 子どもの生育環境について
③ 親としての資質向上について
(3) 県P T A連合会の総会、理事会等に参画する。
(4) 各種P T A研究・研修大会に参加する。
(5) その他
- 第5条 本会の構成
本会は山形県内の各郡・市P T A連合会より、母親委員1名をもって構成する。
- 第6条 本会会員の選出方法
本会の母親委員会の選出については、各郡・市に一任する。
- 第7条 本会の役員
本会には、次の役員を置く。
委員長 1名、副委員長 1名
- 第8条 本会の役員選出方法
各郡・市の母親委員会の中から互選する。
- 第9条 本会の役員の任務
本会役員の任務は次のとおりとする。
(1) 委員長は本会を代表し、本会の目的達成につとめる。
(2) 委員長は山形県P T A連合会理事及び、東北P T A連絡協議会母親委員となる。
(3) 副委員長は山形県P T A連合会理事となり、委員長を補佐し、委員長に事故ある時はこれを代行する。
- 第10条 本会の役割の任期
役員の任期は1年とし、再任は妨げない。

附 則

- この会則は平成5年6月22日より実施する。
- この会則は平成19年4月1日より改正施行する。
(下線……H19年度改訂)

と言われる今、かわりあうすべての人たちが、かけがえない「いのち」に寄り添い支え合う仲間づくりをすること、心を通わせてみんながつながっていく場になることも、私たちの大事な役割ではないでしょうか。この一年、みなさまよりご理解とご支援をいただきながら、たくさんのお会いと学びをいただきましたことに感謝を申し上げます。

・ 第一回母親委員会 六月十二日
・ 正副委員長選出

・ 活動計画及び情報交換
・ 第二回母親委員会 九月二十一日
・ 日本P T A・東北ブロック研究会の報告
・ 情報交換「携帯電話をめぐる現状について」
・ 第三回母親委員会 十一月十四日
・ 「母親委員会、たより」作成案
・ 県P T A研修大会の報告
・ 情報交換
・ 県教育委員会、県高等学校P T A連合会との合同教育懇談会参加

・ 研修「かわりにについて」
・ 「母親委員会、たより」作成
・ 今年度の反省・来年度に向けて
・ 昨年度、母親委員会の会則の見直しが検討され、現況に則したものに改められました。特に、本会の目的と活動については大きな改正となり、平成十九年四月一日より施行されています。

第四回母親委員会

平成二十年二月六日



県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その8～

子育ては受け継がれるものだから

西置賜地区PTA連絡協議会

お父さん、お母さん！自分が子どもの頃、親に育てられたように自分の子どもを育てていませんか。そうなんです。自分の子育ては次世代の子育てに受け継がれていくものなのです。そういう意味からもしっかりと踏ん張って子育てをしたいものですね。

今年度、地区P連協として「早寝・早起き・朝ごはん」の実践に取り組んできました。そこで、全国展開されているこの課題に対して各学校ではどんな状態にあるのだろうか、一年間の実態調査をさせていたいただきました。その結果、全ての小・中学校で何らかの形でこの取り組みがなされていたというをお聞きして、私は大変な驚きと同時に感謝の気持ちでいっぱいでした。学校でも保護者の側でも、基本的な生活習慣の土台としてこのことを共通認識されていたのです。そこで、この取り組みを更に一層充実させてい

くために、次年度の地区会長さんを交えた、地区正・副会長会議を開かせていただき、今後の活動の在り方を検討しました。地区全体である一定期間、共通に「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでみようということになりました。そして、地区P交流会での代表校の実践発表につながっていったのです。この場では各校のレベルの高い、実効の上がる貴重な実践をお聞きしてお互いにいい刺激を受けられたのではないかと思います。しかし、課題がなかったわけでもありません。特に「早寝」については中学生が置かれた部活や受験等といった実態からすれば、大きな問題が今もって尾を引いています。それはそれとして「早起き・朝ごはん」については、子育て中の多くの大人へのメッセージとして今後も発信していきたいと思えます。実践を伴った確かな歩みと

地域を育て込んだ活動

戸沢村立角川小・中学校PTA

本校学区には、メダカ・ゼンゴロウ等の絶滅危惧種が生息する。また、学校のすぐ後ろを流れる角川には毎年サケが遡上してくる。

本校は、児童三十八名、生徒三十二名、児童PTA会員四十八名である。「心豊かで、たくましい子どもを育てるPTA」というテーマの元、保護者全員が一丸となり活動を展開している。

【ふるさと委員会の活動】

本校には、「ふるさと委員会」という学校評議員会を兼ねた組織があり、ヒメサユリ観察会および通学合宿を主催し実施している。これらの活動は、地域・保護者が役割を分担しながら実施している。

○通学合宿

四泊五日で実施している通学合宿では、小学生と中学生が一緒に共同生活を送りながら学校に通学している。保護者は自分の子どもがいな

守っている。「声はかけても手は出さない。」を合い言葉に子どもたちを見守ってくれている。

○ヒメサユリ観察会

「浄の滝」という山奥の滝まで登り、さらに急峻な斜面に上りやつとヒメサユリの群生地に着くことができる。「子どもたちに困難体験をさせることでたくましさや身につけさせたい」そんな保護者・地域の願いから毎年続けられている。今年は、小学一年生も参加し、みんなと同じ体験をしてきた。昼食は沢の水でたそうめんをみんなでごちそうになる。これも楽しみの一つになっている。

【母親委員会の活動】

毎年独自の活動を実施している。今年度は「好き嫌いをなくそう講習会」と題して、比較的子どもたちが嫌いな野菜をおいしく食べさせる工夫について調理実習を通して研修した。

子どもたちが健やかに成長してくれたいことを願い、PTAのみならず地域の方々も巻き込んで様々な活動を実施している。

つなげよう心の「輪」

広げよう人の「輪」

山辺町立山辺小学校PTA

山辺小学校は創立百三十四年、児童数は五百二名の小学校です。子どもたちは、山辺町出身の偉人、安達峰一郎博士に象徴される進取の気性「AGASUKE SPIRIT」(あがすけ精神)をモットーに、わいわい、のびのび、楽しく学んでいます。反面、

交通量増加による交通安全や、また幸いにもこれまでは発生していませんが、近隣地域での不審者騒動が多発する中、子どもたちの安全・安心をどう守っていくかが、PTA活動の重要課題にもなっています。その活動の大きな柱となっているのが、PTA地区委員による活動と、地域の方々に支えられての見守り隊の活動です。

◆PTA地区委員

子どもたちの通う各地域から一名選出されています。PTAが行う資源回収時の各地域との窓口の役割や、子どもたちが登校する時の月に一度

の立哨指導、そして夏休み前に各区域内の危険箇所の点検や安全パトロールを行います。その内容は学校にも報告され、子どもたちの安全・安心の為に地域内情報の共有や、必要に応じての迅速な対応に役立っています。

◆山辺子ども見守り隊

昨年度発足しました。子どもたちのおじいちゃんやおばあちゃんを始めとする、地域の方々に組織されました。専用帽子とジャンパーを着用し、登校時または下校時に合わせ通学路に立ち、子どもたちを見守って頂いています。二年目になる本年度は、七十三名の方々が見守り隊として活動下さっています。山辺小に見守り隊有ります。

本年度、つなげよう心の「輪」を、広げよう人の「輪」をPTAスローガンに活動しています。子どもたちを取り巻く環境が激変する今だからこそ、他のPTA、またPTAという括りを外れ他の団体や地域の方々、行政、企業との心と人の「輪」が必要と考えます。

電う子の笑顔のために

酒田市立亀城小学校PTA

最上川と日本海が出会う湊町酒田。今年度百三十三年目を迎えた酒田市立亀城小学校の子どもたちは、毎日元気よく登校しています。児童の数は四百二十一名。今年度は『子どもたちの心を見つめ合い・語り合うPTA』子どもたちの育ちと親の学びをテーマにPTA活動を展開しています。

【地域との連携】

① かめつこやき

十三年前の創立百二十周年の際に、記念行事として作陶活動を行おう、と始められたのが「かめつこやき」です。以来、文化活動として地域・学校・家庭の連携によって取り組まれていきます。土を練り、形を作り、炎で完成されるという作業は、インスタントで出来上がる時代の中で、貴重な研修体験です。また、土に触れるということは、子ども

② 亀っ子みまもり隊

子どもたちを安全・安心の環境で育てるために、学校・地域・PTAで見守り活動を始めて三年になります。散歩

や買い物の時間を子どもたちの登下校の時間帯に合わせ、安全を見守ろうという活動です。また、地域に「みまもり隊ニュース」を発行し、見守りの様子、子どもたちからの感謝のメッセージを添えています。大人から守られている、そして温かい触れ合いのできる見守り活動は、地域のコミュニケーションツールでもあります。

③ 亀城の森 教育を考える連絡会議

その前身は「学校週五日制推進会議」でしたが、学校週五日が実施されてなお、地域と共に子どもたちの姿を見つめ、意見を交換し、健全育成に努めようという趣旨で実施されている会です。今年度は、『今、子どもたちの安全を考える』というテーマで、学校自治会、交通指導員、PTA生活指導部の皆さんから事例発表をもらい、意見交換を行いました。

【大人の役割と責任】

顔の見える町、落ち着いた土地柄のおかげで、子どもたちが笑顔で学校に通っている亀城小学校。これからも、大人が共に協力しひとつになつて、活動を続けていきたいと思っています。子どもたちの笑顔を守るこそが大人の役割と責任であり、PTA活動の基本ではないかと思えます。

心を通わすPTA活動をめざして

山形市立第十小学校PTA会長 小 関 和 彦

一、はじめに

本校には、十三町内会、四百六十家庭の児童五百六十一人が在学しています。学区内の世帯数は、三千二百戸ほどです。保護者の職業は、会社員、公務員、団体職員が八割を占めています。教育に対する関心は高く、PTA活動も活発で協力を惜しまない校風が脈々と受け継がれています。今回の受賞は、これまで十小のPTAとして係わって下さったすべての保護者の皆さんと、いつも一緒になって一生懸命に取り組んで下さる先生方、学校行事・PTA行事に深いご理解とご協力をいただいている地域の皆さん、みんなの力でいただけたものだと思います。また受賞にあたり、ご指導ご支援いただいた関係機関の皆様にも心より感謝申し上げます。

二、PTA活動方針

「さわやかあいさつ 笑顔で活動」
 ・伝えよう 次の世代に
 ・広げよう 家庭へ 地域へ
 ・楽しもう 一緒になって
 この活動スローガンの下、PTA会員一人一人が自分のできる事を、できる範囲内で協力して全員参加のPTA「チーム十小」を目指して活動を展開しています。また、地域との係わりを大切にする中で、学習ボランティアや防犯活動など地域との連携を深めています。

三、特色ある取り組みについて

(一) 子どもの安全・安心を守る取り組み「ガード・ア・スマイル活動」
 大阪での児童殺傷事件を受けて子どもたちの安全・安心を守るためには、学校・家庭・地域が密接に連携する必要があります。



あるという想いからこの取り組みが始まりました。活動の継続を目指すためには、親しみやすさが、又自分達の活動であるという自覚を促すためには、オリジナリティが、それぞれ必要と考え活動の名称を「ガード・ア・スマイル」とし、イメージデザインも作成しました。このデザインを使つてのぼり・ポスター・IDカード・ステッカー・お菓子・Tシャツを造つて用途に応じて活動のPRやPTA会員の意識向上に役立てています。全ての費用は、資源回収、クローバー祭(校内でのバザーから地域の方との絆を深める楽しいお祭りを目指し、地域の公民館をお借りし開催)などの収益金のPTA特別会計を当てています。IDカードの作成・配布は、

保護者が来校する時にはどんな用事でも必ず身につけるようにし、みんなが身につけることで、学校への不審者の侵入防止役立てたり、同じものをつけることで、保護者同士の連帯感が強まり、さらに、児童氏名・入学年度を記載しているのとお互いのコミュニケーションづくりの有効となっています。中でも一番大切な事は、カードを身につけるといふ行動をおこすことで、自分は今、安全安心を守る取り組みに参加しているという自覚・意識を高められるということです。こども一〇番は、PTA単独であったものを地元交番と防犯連絡協議会の方々と合同で取り組み今年度からは、児童もお礼の手紙を持参するなど常につながりを持てるよう考えました。安全マップは、全会員による親子危険箇所点検と、一斉下校時の付き添い職員からの情報をもとに先生方の全面的バックアップで作成しています。

(二) 学習ボランティア
 参加できる方は限られますが、授業における役割や内容の打ち合わせを通し、また、直接子どもたちと過ごすことで学校が身近に感じられるようになったとの声が聞かれます。



一、はじめに

鶴岡市北部に広がる田園の中にある鶴岡市立栄小学校は児童数五十三名の小さな小学校です。実家庭数三十六の正社員と児童のいない二百十四の家庭全てが準会員となっており地域全体がPTA活動に協力的で、また積極的にかかわりを持つていただいている。今回、このような荣誉ある表彰をいただくことができたのは、これまでPTA活動を支援くださった地域学校、保護者そして関係団体のおかげと心より感謝申し上げます。

二、PTAの組織と活動

私たちのPTAでは四つの専門部を設け、正会員全員が役員を担っている。

① 生活部

スクールゾーンの塗料や標識立てや交通安全教室への協

力等児童の安全を守ることと、子ども会活動の活発化と各町内会や子ども会同士の結びつきを深めることを重点に活動を行っている。

② 文化部

子どもたちの様子やPTA活動それに保護者や地域の声が伝わるように広報紙「さかえ」を年三回発行し、吹奏楽を楽しむ「音楽の夕べ」や外部から講師を招いての子育てに関する研修会等を企画・運営している。

③ 保体部

校内相撲大会・水泳大会への協力や親子スキー教室の運営、学校保健委員会への参加等、運動面における学校行事やPTA事業への協力と保健教育活動の啓蒙を重点に活動している。

④ 体験部

学校田や畑での作物を育てる体験を重視して作られた部で田植え、稲刈りの世話、わら細工教室や収穫感謝祭の協力等育てる喜びや収穫の喜びを子どもたちが実感できるようにすることや伝統的な文化継承活動を体験させることを重点に行っている。

三、学校、家庭、地域の連携協力

① さかえ防犯見守り隊
 平成十七年二月に発足、町内会毎に保護者と地域の方々が通学路で集団登下校時の安全確保活動を展開している。
 ② 一連の農業体験とわら細工
 学校近郊の田圃をお借りし、田植え、稲刈りなど稲作を体験、収穫感謝祭ではわら細工に挑戦し、杵と臼によるもち

つきも行っている。
 特に老人クラブの皆様からは「わらすき」から「なで・さんばやし・しめかざり」のわら細工づくりを指導してもらっている。
 ③ 相撲大会の審判
 春の校内相撲大会では大勢の保護者が応援し見守る中、審判は孫親に快く引き受けていただき、努めてもらっている。
 ④ 地域の先生による読み聞かせ
 保護者や地域の有志の方から、児童に本の読み聞かせをお願いし、子どもたちには大変好評である。

四、自然環境を生かした活動

① ビオトープ
 平成十三年に学校敷地内に井戸を掘削、有志の協力で魚やザリガニなどの生き物と触れ合える池を設置、「ふれあいワンダーランド」と命名し、翌年小川と池を増設、現在に至る。休み時間には児童が生き物と戯れる姿が見られる。尚、来年度さらに改良する予定がある。

② ほなみ農園活動
 学校敷地に設けられた畑に、サツマイモやサトイモ、トマト等の野菜を栽培、畝作りから収穫まで地域の皆様の支援を受け、実施している。

五、おわりに

これまで地域と学校・PTAとの連携協力体制はうまく機能しており子どもは地域の宝として大切に育成して目標を実現できるよう今後とも充実した魅力ある活動を行っていくことが重要であると考えている。



「地域を愛し、心豊かでたくましい子どもを育てよう」を目指して

鶴岡市立栄小学校PTA会長 小林 誠



平成十九年十一月二十一日に東京のホテルニューオータニで開催された表彰式において、舟形町立舟形小学校父母と教師の会が「日本PTA全国協議会長表彰」を賜りました。

受賞にあたり、推薦していただいた関係各位に謝意を表すとともに、本校PTA活動の取り組みを紹介し、受賞のお礼とさせていただきます。

一、地域と学校の概要

本校は、「若あゆと古代ロマンの里舟形」の中央に位置し、近くを清流小国川が流れ、多くの鮎釣り客が全国から訪れます。また、平成四年に八頭身美人の土偶（縄文のビーナス）が発掘されています。

舟形小学校は百三十三年の歴史を刻み、PTAも創立六十一年の佳節を迎えました。

二、PTAの組織と主な活動

全会員が各専門委員会に所属し、「①さわやかあいさつ運動、②早寝・早起き・朝ごはん運動、③各委員会活動の活発化、④各種研修会への参加」で、「子どもと共に学び、共に育ち、笑顔あふれる舟小

PTA」をめざしています。各委員会の主な活動は次の通りです。

- ① 町内委員会……危険箇所点検・看板設置、校外生活モニター、町内懇談会、代沢交流事業の町内歓迎行事、長期休業中の地区行事・安全指導等、資源回収
- ② 施設委員会……米づくりの指導（田植え・稲刈り）、

ポーツ、代沢交流事業等）

- ⑥ 母親委員会……学校保健委員会、舟小祭のバザー、親子食育教室、収穫感謝祭
- 三、特色ある活動
- (1) 代沢交流学習の支援
- ① 平成元年から始まった世田谷区立代沢小学校五年生との交流学习。七月に舟形小に迎え、十月に代沢小を訪問。来年度が二十周年。

(2) 児童の安全を守るための

- 地域連携の取り組み
- ① 危険箇所点検、危険箇所の安全指導、② 夏休み等の開催、③ 町内懇談会（八月）を通して、学校と地域との連携強化、④ 「こども一一〇番連絡所」（十六箇所）と「子ども見守り隊」、⑤ スクールガードリーダー、交通安全母

日本PTA全国協議会長表彰

子どもと共に学び、共に育ち、笑顔あふれる舟小PTA

舟形町立舟形小学校父母と教師の会会長

村上孝志

収穫感謝祭（餅つき）、雪囲い作業

- ③ 文化委員会……学校行事の取材とPTA新聞の発行（年三回）

④ 保体委員会……行事の準備・運営（運動会、相撲大会、スキー大会）

- ⑤ 学年委員会……学年親子行事の運営（そば打ち、いも煮会、自然観察、軽ス

五年生保護者はもちろんのこと、PTA総体で支援・推進している。

- ② 夏期交流（七月）の主な内容

一日目……お迎え集会、町内行事
二日目……町めぐり、川遊び、鮎つかみ
三日目……お別れ集会

の会、老人クラブ等による登下校の見守り、⑥ 防犯協会、民生児童委員による「おはよう運動」

- (3) 研修するPTAをめざして
- ① 四月、PTA総会前に「一年生保護者会」を開催、② 舟形町PTA研修大会への参加と分科会運営、③ 学校保健委員会への参加「早寝・早

平成十九年十一月二十一日に東京ホテルニューオータニにて、日本PTA全国協議会会長賞を受賞いたしました。受賞にあたり、推薦していただいた関係各位に謝意を表しますとともに本校とPTA活動を紹介し、受賞のお礼とさせていただきます。

本校は、浜田小学校からの分離校として今年度創立三十六年目を迎え、児童数は三百八十三名であります。学区は、酒田市の中央部を流れる新井田川の東側から国道七号線沿線の、戦後に発達してきた住宅街で、学区中央を東西方向に羽越本線、南北方向に国道七号線が交差しています。国道沿いと学区を縁取る中核道には店舗が点在しています。若浜小開設当初より、地域の方々は町づくりに燃え、PTA活動のみならず、子ども会、コミュニケーション振興会等、伝統づくりに励んでこられました。現在は、三世代同居家庭も多く、落ち着いた雰囲気の中にも進取の気風を持つ地域であります。

次に組織について紹介いた

サポーター」活動を積極的に支援しています。また平成十七年度にPTA保健安全全部で作成した地域「安全マップ」を今年度も一年生と転入児童に配付し、見直しや活用の手だても継続して検討しています。また今年度、総務事務局作成の緊急用電話連絡シートを若浜学区「こども一一〇番連絡所」お引き受け者に配

もの健康な心と体づくり」をめざす活動に取り組みしました。平成十八年度には、取り組みを整理し、「食について考えよう（食育を中心に）」をテーマとして取り組み、「山形県食育実践活動表彰山形県農業協同組合中央会会長賞」を受賞することとなりました。それから前年まで出席率が三〇％未満だったPTA総会を

します。各学年の役員は、評議員十名と母親委員二名で構成されています。評議員は、学年委員長と総務事務局員、三専門部（文化部、広報部、保健安全部）に分かれます。六年生までに一度は役員を経験する約束をしている学年がほとんどであります。各学年では、評議員だけでなく全会員を行事ごとに希望制で班に

どもたちを」と定めその名の通り家庭・学校・地域が一体となり地域の宝の子どもたちを見守っています。子どもの安全を守る活動の展開としてPTA全会員による挨拶運動を兼ねた毎朝の交通安全指導（三力所）の実施を行っています。また各地区においても盛んに展開されている見守り隊としての「若浜こども安全

付し、万が一の緊急時に対応しています。それから、家庭と学校が連携した「食育」の展開もしています。本校児童の課題として、欠席者数の多さ、体格・体力の低下傾向、生活リズムの乱れ、食生活の崩れ等です。そこで、子どもの健康や生活習慣の改善を目的に、平成十七年度より、学校保健委員会を中心に「子ど

日本PTA全国協議会長表彰

『家庭・学校・地域とのかかわりの中で子どもたちを育むPTA活動』

酒田市立若浜小学校PTA会長 吉川 学

今年度、授業参観と緊急児童引き取り訓練一斉下校を日程に組み入れて出席率は七〇％を超えました。次年度以後もねらいの共有化（どんな子どもを、どんな方法で、どんな支援をしていくか）を図るために、総会を大切にし、参加者数を増やす工夫を重ねていくようにしていきます。そして常に子どもが話題になるPTAにするため、積極的に保護者間のコミュニケーションをとるようにしています。今回の受賞で、大事なことは受賞したことではなく、これをきっかけとしてこれまで以上に学校、地域、子どもたちの為活動していくことだと考えます。



代沢交流事業を支える保護者

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状がおくられましたのでご紹介いたします。

(敬称省略)

優良PTA文部科学大臣表彰

山形市立第十小学校PTA
鶴岡市立栄小学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体

舟形町立舟形小学校父母と教師の会
酒田市立若浜小学校PTA

◇個人

武田 岳彦 (前県P連副会長)
佐藤 俊司 (前県P連副会長)
高橋 欣也 (前県P連副会長)
奥山 雅広 (前県P連副会長)

東北PTA連絡協議会会長表彰

◇団体

長井市立豊田小学校PTA

◇個人(感謝状)

佐藤 恂一 (前県P連事務局長)

◇個人(表彰状)

安孫子 剛宏 (前県P連理事: 上山市)
鈴木 聡 (前県P連理事: 天童東村山)
高梨 光永 (前県P連理事: 北村山)
嶋津 芳美 (前県P連理事: 米沢市)
二瓶 幸浩 (前県P連理事: 西置賜)
石塚 治己 (前県P連理事: 鶴岡市)
田桑 秀 (前県P連理事: 東田川)
齋藤 義明 (前県P連理事: 酒田市)
前田 公平 (前県P連理事: 飽海)
佐藤 静子 (前県P連理事: 山形市)
深瀬 匡巳 (前県P連理事: 北村山)

優良PTA県教育委員会表彰

村山市立袖崎小学校PTA
山形市立高楯中学校PTA
朝日町立西五百川小学校父母と教師の会
山形市立第十小学校PTA
舟形町立舟形小学校父母と教師の会
長井市立豊田小学校PTA
高島町立屋代小学校PTA
鶴岡市立栄小学校PTA
酒田市立若浜小学校PTA

山形県PTA連合会会長表彰

☆個人(感謝状)(県P役員退任者)

武田 岳彦 (前県P連副会長: 山形市)
佐藤 俊司 (前県P連副会長: 西村山)
高橋 欣也 (前県P連副会長: 最上)
奥山 雅広 (前県P連副会長: 東置賜)
安孫子 剛宏 (前県P連理事: 上山市)
鈴木 聡 (前県P連理事: 天童東村山)
高梨 光永 (前県P連理事: 北村山)
嶋津 芳美 (前県P連理事: 米沢市)
二瓶 幸浩 (前県P連理事: 西置賜)
石塚 治己 (前県P連理事: 鶴岡市)
田桑 秀 (前県P連理事: 東田川)
齋藤 義明 (前県P連理事: 酒田市)
前田 公平 (前県P連理事: 飽海)
佐藤 静子 (前県P連理事: 山形市)
深瀬 匡巳 (前県P連理事: 村山市)
宮地 真司 (前県P連監事: 西村山)
佐藤 恂一 (前県P連事務局長: 山形市)

☆個人(表彰状)(郡・市Pより推薦)

菅原 靖男 (前山形市P連)
佐藤 朋文 (前山形市P連)
横沢 正巳 (前山形市P連)
鈴木 恒行 (前山形市P連)
須藤 隆司 (前天童東村山P連)
大山 和子 (前天童東村山P連)
大沼 隆一 (前天童東村山P連)
本間 純 (前北村山P連)
木村 重雄 (前最上地区P連)
佐藤 秀樹 (前最上P地区連)
成澤 弘明 (前鶴岡市P連)
田桑 秀 (前田川地区P連)
津島 正弘 (前酒田市P連)

2007たのしい子育て全国キャンペーン 第8回「家庭の風景～三行詩と写真コンクール」

〈一般の部〉

☆読売新聞社賞(三行詩の部)

石井 てつみ (酒田市)

☆読売新聞社賞(写真の部)

高橋 浩幸 (日新小学校教諭)

日本PTA全国研究大会 滋賀びわこ大会に参加して

山形市立南沼原小学校PTA副会長

庄司 久幸

八月二十四・二十五日の全国大会は、記憶に残る貴重な体験となりました。私が参加した分科会の研究テーマは「環境・びわこから考える環境学習」でした。分科会では小・中学生から「自然・地域に学び、楽しむ」という観点から、実践発表がありました。小学生は、地元の河川を六年間継続して観察した研究発表でしたが、地道なしっかりした活動に感心しました。中学生の発表は、総合学習「びわこTIME」における環境教育の実践でしたが、びわこの生態系について、一年生から三年生までの混合チームが、同テーマで三年間継続観察している研究発表で、生徒の自主性を重視した教育活動に関心しました。またPTAの発表では、みなで学校の敷地内に潤いのある中庭を造ろうという学校ビオトープづくりの実践をお聞きしました。完成までに様々な苦労があったようです。しかし、生徒、保護者、先生、地域が一緒になって造り上げた森への取り組みは素直に感動しました。

分科会基調講演は、作家の立松和平氏の「南極で地球環境を考えた」は地球温暖化、オゾン層の破壊の話でしたが、正直私には難しくよく分かりませんでした。しかし、今地球は、確実に危ない方向に進んでいることを感じる事ができました。分科会に結論は、「自然のなかで、体験による環境学習を実践推進することが、生涯学習の大きな課題である」ことを、びわこから発信していくというものでした。全体会の記念講演は、講師の青島広志氏の講演「コミュニケーションのための音楽」師・友人・後輩・生徒たちとをテノール歌手の小野勉さんの歌とともに爽やかに記憶に残る講演となりました。六千人を超える大規模な研究大会に参加して貴重な体験ができました。また、県内各地区の仲間と知り合え親睦を深め情報交換ができたことは、私の大事な財産となりました。心より感謝申し上げます。



東北ブロック仙台大会に台風連れで参加して



米沢市PTA連合会
二階堂 富太郎

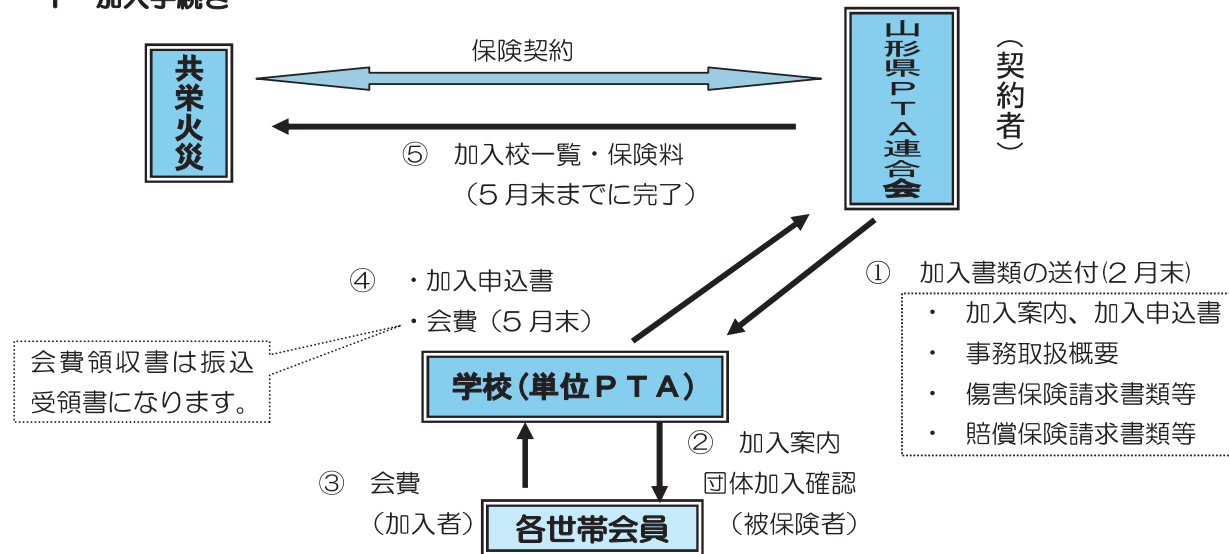
日本列島を縦断した台風は、奥羽山脈を北上、山形新幹線、仙山線は運休、高速度笹谷峠も通行止めとなり、山形県は陸の孤島となり、仙台行きが危ぶまれたが、幸い米沢からは、仙台行きの高速バスが唯一動いているとの情報を得て、JR米沢駅から急拠バス待合所に移動し、満員のバスに何とか乗り込むことが出来た。出発時の米沢は、台風の目に近かったのか、心配した程雨も風も強くなかったが、仙台に近づくにつれ風も雨足も強まり、分科会会場に向かう途中は傘も役に立たず、ずぶぬれになりながら、何とか二時間遅れ位で参加する事が出来た。私が参加した第四分科会では、家庭の子育てと小学校教育の連携をテーマに、小児科医の先生が基調講演

され、子どもの問題行動、反社会的事件の原因は、夜更かし、映像メディアによる脳の「前々頭葉」の慢性疲労にあり、不登校児等の色々な症例を上げながら、子どもたちにメディアワクチンをお話してテレビは一日二時間、ゲームは三十分の提言があり、ノーマメディアデーを設け、子どもの笑顔、目の輝きを取り戻すため、家庭の役割は今後益々重要になるとのお話をいただいた。私達保護者も様々なメディアの影響について再考が必要な事を実感させられました。二日目の全体会は台風一過、夏の暑さに逆戻りの中、開会行事、女子高生のアトラクションがあり、仙台大会の目玉であるアグネス・チャンの記念講演が行われた。私の子どもと同年代の三人の子育てのお話で大変興味深く、途中手話による歌の披露もあり、心温まる講演で、ユニセフ大使でアフリカの子どもの話には感動で涙ぐむ程でした。後日、病いを押しての出演を知り、強い人だと再感動致しました。最後に、台風という悪天候の中、百名近く登録された殆どの方が全体会に出席出来ました。山形県P連の底力と、各郡市P連の情熱を感じている思いがします。皆さん御苦労様でした。

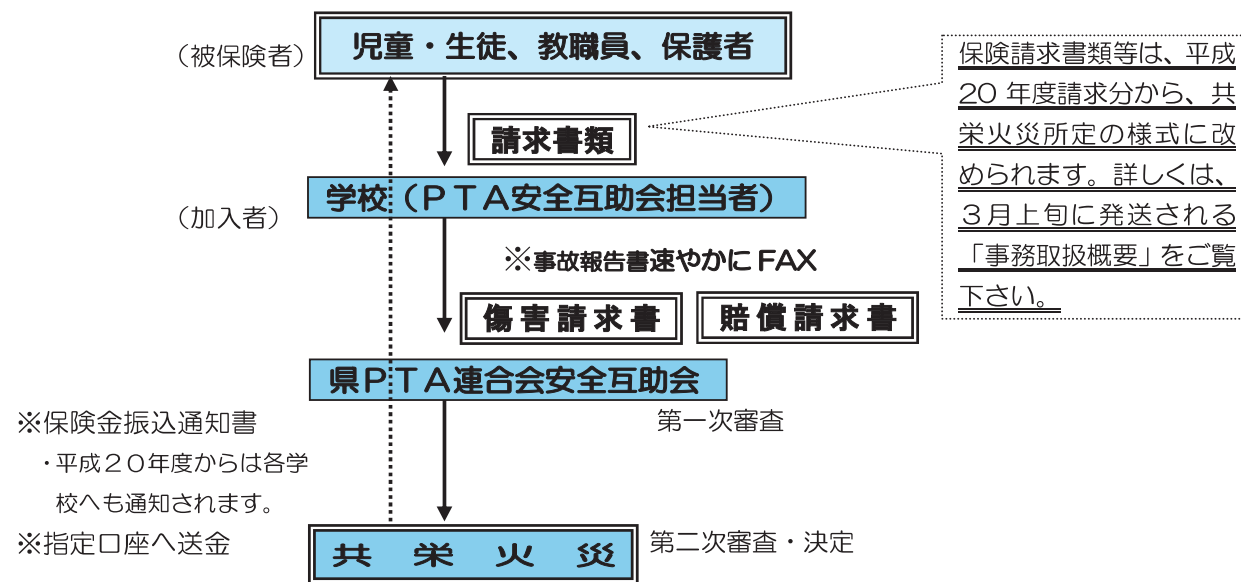
安全互助会からのお知らせ

山形県PTA連合会安全互助会は、平成19年度より共栄火災海上保険㈱に契約移転され、山形県PTA連合会の事業の一環として運営されています。児童・生徒の安全やPTA活動を側面からサポートします。平成20年度からもご加入くださいますようお願いいたします。

1 加入手続き



2 保険金支払いの事務の流れ(請求から送金まで)



〔事務手続き問い合わせ先〕

山形県PTA連合会安全互助会

〒990-0041

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023-631-0055

FAX 023-635-4359

〔引き受け保険会社〕

共栄火災海上保険(株)

〒990-0039

山形市香澄町2-11-13

南東北支店 山形支社

TEL 023-622-2827

FAX 023-624-0219

日中友好少年少女の翼に参加して

一生の財産を得た 中国訪問

寒河江市立陵南中学校

三年 小北 采佳

三月末、私は日中友好「少年少女の翼」に参加し、中国を訪問しました。

私が最も驚いたのは、中国の中学生の英語力です。中国の中学生と交流する機会があり、英語で様々な会話をしました。しかし、中国の中学生は、まるで母国語のように流暢な英語で話すので、私は、ほとんどついていけませんでしたが、身を持って、自分の英語力の乏しさを知りました。そのような状況の中で、私は、言葉が通じなくても、相手が何を伝えようとしているのかを分かるようにする努力が大切だと学びました。「少年少女の翼」の団員に配られたしおりには、「たと言葉や習慣が違っていても、人の心は、地球上どこでもかわりありません。」と書いてありました。自分が心を開いて接すれば、心は通じるし、どんな人ともきつと分かり合えるのだと思います。決して、言葉を交わ

すことだけがコミュニケーションではないのだと実感しました。

また、日本全国から集まってきた中学生との交流も、とても新鮮で刺激的でした。みんな、人としての質が高く、内面から輝いているような雰囲気を持っていました。この中国訪問がきっかけで、全国に友達の輪が広がりました。親しくなりすぎて、みんなと別れるのが惜しかったですが、みんなとの絆は一生のものだと思います。様々な所に友達でできたことで、今までよりも、全国に目を向けるようになりました。これからの生活で、どんな苦労があっても、全国で頑張っているみんなのことを思い出せば、乗り越えていける気がします。これからは、私を大きく変えてくれたこの思い出を一生の財産として、自信と誇りを持って歩んでいきたいです。最後に、PTAの方々や家族など、この事業に携わっていただいた方々に、深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

最高の思い出

寒河江市立陵南中学校

三年 布施広太郎

僕は、日中友好少年少女の翼に参加することができて、本当に良かったです。

最初は、いろいろな不安がありましたが、班のみんなとすぐ仲良くなり、毎晩みんなでトランプをしたり、紙風船で遊んだり、とても楽しく過ごすることができました。この旅の中で印象に残ったことがいくつもあります。

からないので、かたことの英語で頑張りましたが、ぜんぜん通じなくて、かなりあせりました。パーティーでは、一緒に食事したり、ゲームや歌を歌ったりして楽しめました。旅の途中、日本食が食べなくなるなど、日本の良さも、改めて感じました。あつという間の六日間でしたが、この旅で得たことは、僕の一生の宝物です。PTAの皆様、先生方、皆最高の思い出をありがとうございました。

日中友好「少年少女の翼」日程

月日(曜日)	地名	現地時間	スケジュール
3月24日(土)	成田	15:30 18:00 19:30	日中友好「少年少女の翼」団結式 夕食 事前研修会
3月25日(日)	成田 北京	10:30 13:30 15:30 18:00	出発航空北京へ(所要 約4時間) 北京空港着 少年宮訪問 ホテル着(華潤飯店) 夕食
3月26日(月)	北京	9:00 14:00 15:00 17:30	天壇公園、天安門広場、人民大会堂 北京動物園 太極拳体験、水墨画体験 ホテル着(華潤飯店) 夕食
3月27日(火)	北京	9:00 10:00 12:30 19:15	ホテル発 北京師範大学第二附属中学校訪問 昼食交流会(華潤飯店) 夕食後雑技鑑賞
3月28日(水)	北京	8:20 9:20 12:20 17:20 20:00	ホテル発 故宮見学 昼食、お買い物 市内レストランで夕食 ホテルにて解団式
3月29日(木)	北京 成田	8:30 12:50	北京発帰路へ 通関後解散

足もとから 見つめよう 家庭・学校・地域とのかかわりを



鶴岡市PTA連合会会長

土田 修

来年度は、山形県PTA連合会の結成六十周年という記念すべき年に当たります。

この記念すべき年の研修大会を鶴岡市・庄内町・三川町の一市二町のPTAで、「鶴岡・東田川大会」として、お引き受けすることとなりました。

県内のPTA会員が一堂に会する唯一の機会であり、この研修大会をきっかけに更に、子どもたちが生き生きと輝く姿が、県内全域に広がっていくことを期待しております。

大会主題は、十八・十九年度の「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」を引き継ぎ、鶴岡・東田川の特徴を生

かしながらの研修大会になるように計画しているところであります。

今、「早寝・早起き・朝ごはん」という言葉をよく耳にします。

また、異年齢の子どもたちや地域の人々との交流の場や自然体験の減少など、家庭や地域の教育力の低下も指摘されています。

昔は当たり前のことのように各家庭・地域で実践されていたことが、社会の変化を背景に、このように大々的に全国で展開されております。

子どもたちが社会の中で、「いのち輝く」姿の「根」は、家庭における親をはじめ家族との愛情あるかわりによつて深く培われ、地域における様々な人々とのかわりによつて広く支えられ育まれていくものであるという不易なことをもう一度、PTAとしてじっくりと考える必要があると思います。

鶴岡・東田川大会におきましても、このような現状を足もとからしっかりと見つめ、日常生活の身近なことから話題をつなぎ、子ども・家庭と地域、そして、学校の生活に具体的に結びつくような研修ができればと感じているところであります。

ぜひ、県内各地より多数のご参加をいただきますようお願い申し上げます。

平成19年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役 職	氏 名	所属地区PTA	所属PTA	役 職	氏 名	所属地区PTA	所属PTA
会 長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小・中	理 事	高橋 健一	酒田市PTA連合会	松陵小
副会長	大風 亨	山形市PTA連合会	山形一中	〃	本間 知広	飽海郡遊佐町PTA連合会	遊佐小
〃	平 雅昭	東置賜地区PTA連合会	和田小	〃	佐竹 恵一	県小学校教職員代表	山形八小
〃	土田 修	鶴岡市PTA連合会	朝陽六小	〃	佐藤 嘉一	県中学校教職員代表	米沢一中
〃	深田 裕一	最上地区PTA協議会	新庄小	〃	無着 道子	山形市PTA連合会	本沢小
理 事	稲毛 敏	上市市PTA連合協議会	上山北中	〃	我妻真奈美	米沢市PTA連合会	三沢西部小
〃	佐東 幸治	天童東村山地区PTA連合会	中山中	監 事	高橋 和典	山形市PTA連合会	山大附属小
〃	土田 彦雄	西村山PTA連合会	陵東中	〃	志田 祐啓	上市市PTA連絡協議会	上山南小
〃	板垣 正幸	北村山PTA連合会	楯岡中	〃	大沼 篤	山形市PTA連合会	山形西小
〃	二階堂富太郎	米沢市PTA連合会	三沢東部小	事務局長	鈴木 幹雄	〃	
〃	間宮 尚江	西置賜地区PTA連絡協議会	小国中	事務局員	佐藤 洋子	〃	
〃	齋藤 学	東田川郡PTA連合会	余目中	〃	熊谷 慶子	〃	

あとがき

PTA活動を始めて十一年、遂に今年で最後の年となりました。先日、所属の山形一中の合唱コンクールがあり、保護者が子どもたちへのメッセージを込め合唱して来しました。この活動は三年前から始まり、今回は五十四名の保護者が一カ月前から週一回の練習を行い四曲披露しました。今まで経験した事がないステージの上で歌い、子どもたちが歌に合わせて拍手し声援を送ってくれる光景はとても感動的でした。そして合唱コンクールが終った時ふと諸行無常を感じました。今までPTAの行事は毎年同じで、面倒だと感じた事もありましたが、今年の活動が終わるといってもやっていた事も今回が最後なのです。皆さんも、今が自分の番と考えPTA活動を頑張ってください。

そして、諸行無常を繰り返しながら山形県PTA連合会は来年度六十周年を迎えます。皆様のお力で記念事業を成功させて頂きますようお願い申し上げます。

(大風)